週報 W RAPID *Weekly Report on Aomori Prefectural Infectious Disease*

発行 青森県感染症情報センター（2006年9月15日）
（青森県環境保健センター内：担当　微生物部）
TEL 017-736-5411、 FAX 017-736-5419
青森県環境保健センターホームページ
http://www.pref.aomori.lg.jp/eiken/index.html

青森県感染症発生情報　（2006年第36週）

Ⅰ　第36週の発生動向（2006/9/4～2006/9/10）

1. **伝染性紅斑**については、むつ保健所管内で第35週から、**警報**が継続しています。
2. **ヘルパンギーナ**については、むつ保健所管内で第28週から、**警報**が継続しています。

Ⅱ　第36週五類感染症定点把握

保健所名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数
疾患番号・疾患名	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	(前週からの増減)
(72) インフルエンザ															-1
(60) 咽頭結膜熱	1	0.11			2	0.22	3	0.60			4	1.00	10	0.24	1
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	0.89	4	0.44	1	0.11			1	0.17	2	0.50	16	0.38	0
(62) 感染性胃腸炎	14	1.56	8	0.89	4	0.44	2	0.40	6	1.00	17	4.25	51	1.21	-10
(63) 水痘	6	0.67	8	0.89	3	0.33	1	0.20	2	0.33	7	1.75	27	0.64	10
(64) 手足口病	19	2.11	9	1.00	2	0.22							30	0.71	-8
(65) 伝染性紅斑					1	0.11	1	0.20	3	0.50	4	1.00	9	0.21	-7
(66) 突発性発しん	8	0.89	7	0.78	6	0.67	1	0.20	5	0.83	6	1.50	33	0.79	-3
(67) 百日咳									1	0.17			1	0.02	1
(68) 風しん															0
(69) ヘルパンギーナ	22	2.44	13	1.44	3	0.33	1	0.20	4	0.67	16	4.00	59	1.40	-7
(70) 麻しん（成人を除く）															0
(71) 流行性耳下腺炎	4	0.44	11	1.22	7	0.78	1	0.20	3	0.50	4	1.00	30	0.71	-5
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎			21	7.00			1	1.00					22	2.00	16
(59) RSウイルス感染症															0
(82) マイコプラズマ肺炎					1	1.00					5	5.00	6	1.00	2

定点数

保健所名	インフルエンザ（内科＋小児科）	小児科	内科	眼科	基幹
青森	14	9	5	2	1
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

は警報　　は注意報　　「空欄」：患者発生数0

Ⅲ　表Ⅱ以外の感染症法対象疾患　（18年計には、今回届出された人数を含む）

（10）細菌性赤痢（二類全数把握疾患）　　八戸保健所管内：3人　　（18年計 3人）

感染症の窓　細菌性赤痢

本疾患は、赤痢菌属（*Shigella spp*）の細菌が、経口的に大腸粘膜細胞内に侵入増殖し、化膿性炎症を起こすことによって発症する急性感染性大腸炎です。赤痢菌属には、*S. dysenteriae*（A群）,*S. flexneri*（B群）,*S. boydii*（C群）,*S. sonnei*（D群）の4菌種があります。国内での発生例は *S. sonnei* が70～80%を占めています。本県では過去7年間において、1人～多い年で11人の報告数です。全国的には毎年400～900人が報告されています（表参照）。

表　1999年から2006年までの報告数

	全国	青森県
1999	620	2
2000	843	2
2001	844	11
2002	699	9
2003	473	7
2004	594	1
2005	557	1
2006	282	3

※　全国値は35週、青森県は36週までの報告

症　状

全身倦怠感、悪寒を伴う急な発熱、水様性下痢、腹痛であり、特徴的な症状として、しぶり腹[1]、膿・粘血便等があります。潜伏期間は1～5日（多くは1～3日）です。

感染予防

輸入例が大半を占めることから、汚染地域と考えられる国（東南アジア、南アジア、アフリカ、中南米等）では**生もの、生水、氷などは飲食しない**ことが重要です。
国内においては、少ない菌量でも感染するため、経口感染を防ぐ目的から、**手洗いを励行**し、特に小児や高齢者などへの感染を防ぐことが重要です。

[1] **しぶり腹**：便意は強いが、なかなか排便できないこと。